(1)	2016年12月1			Kyodan Tii	nes	定 価 1 予約購読*	部 144 円 (オ 1 年分	紙代のみ 3,60	5円) 発行所 0円 169-0 0円 日本キ	所日本書	52 · 53 号 基督教団 ^{貧区西早稲田 2-3-18} ^{電話 03(3202)054(}
	4X	ゴ新	2	X		そえて へお申	購読ご希望 、お近くの し込み下る	潜 00140-9-14 望の方は、前金を シキリスト教書属 さい。 担金に含みます。	2	発 行 人 道 編集主筆 渡	
			0	伝えています。	れる。その喜びを、ルカ暗闇です。そこに光が訪	ます。誰でも知っているったと聖書は物語ってい	ではなく、暗く重たい闇	的に夜であったというのりに夜であったというの			スマス セージ
				です。その目的の一つは	つ 寄	勅令という国家権力の力中にいた頃とは、皇帝の	の前の1節以下で語られ	す。その暗闇がどれ程深とことに登場する羊飼い	暗 い 夜		おうろう
(天使たち)	が離れて天に去ったと う。主が知らせてくだ	、 ・ オスカー・ ミラー記念礼拝 き、 羊飼いたちは、 「さあ、 べ さったその出来事を見ようで 《 ルカによる福音書 2 章	、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		かったので、ベツレヘム	ヨセフとマリアも住民しょうか。	ありました。今日で言う	よるきな臭い時代の始ま スマスとは、国家権力に 戦争の準備でした。クリ	の 時 代	ルカに	ハツレヘ
のでしょう。現代のベツクエス・キリストがおら現代のベツレヘム、御子	現代のベツレヘム、そうではなくて	そ をしていたのたろうか。 に行かないのだろうか。 除されなかった住民登録 に、何故彼らは行かない のだろうか。	香をして、こつごつうたちは夜通し羊の群れの	いる羊飼いたちが登場しいる羊飼いたちが登場し	通し羊の群れの番をして	$\left[\right]$	離にすると約百キロで	ベツレヘムまで、直線距たからです。ナザレかららば、マリアは身重だっ		よる福音書 2章1~2節	ふへ行
はありません。夜の内にち上がったのです。朝にちせん。仕事の最中に立	にったのではあり 「事が一段落してす。 しく レイレ	くること 働 頑 ない	す。あなたはそこにいます。あなたはそこにいま	寺っこいないっこりで、人間だったのです。もっとはっきり言えば、彼らは住民登録をする権利をは住民登録をする権利を	だけです。彼らは住民登	暗闇に横たわ	ればならなかったので	身重の女性が旅をしなけり谷あり砂漠ありの道を	離です。当時は道路も舗山を越えた山梨ほどの距す。それは東京から富士	章 1 ~ 20 節	見どうー
し、羊飼いはそうしなかうかもしれません。しか	こたまら	夜を過こしている人間か ここにいた。	を の 高味で、 本当に 暗い	DPに黄とつっていた。	のできない人間がここに	暗闇に横たわる者たちに	です。何でこんな時に、	かったのです。暗い時代除してもらえることがな	ったはずです。けれども、対にこの旅をしたくなかす。マリアとヨセフは絶		
下さった。そのお方を目す。自分を救うお方の存在です。それは、	った。仕事中に立ちあがった。問題が解決しない 中で、暗い内に出かけた。	自分なんかりたりにう 族にとっても、都合が良 が、社会にとっても、都合が良 いのではないだろうか。 「私なんか、僕なんか 暗さです。	ヨナエレル、エ、エ、はないか。いやむしろ、	っらでらへ、FE ADダ 嫌でも思わされる。自分 嫌でも思わされる。自分	こにいるのに、必要とさいか。私という人間がと		ゃんがお腹にいたのでゆ		て起こるのだろうか。そ時に、嫌なことが重なっけに、すなことが重なっ	森!	島豊

 \oplus

son 2 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 -	B (Finite 5) 注まっていた。ここに、	「し、次号は? が埋まっていた。ことに、 し、次号は? が埋まっていた。としかう ことができず暗闇で横 たかったのしたのたでき。ここに、 たかったのです。こここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここに、 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たのです。 たかったのです。 たのです。 たかったのです。 たので、 たのです。 で」 で、 たのです。 たのです。 たのです。 で」 で、 たのです。 で」 で」 で、 たのです。 で」 で」 で」 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、
 <td>としいて、その中で競争に負 が埋まっていた。ここに、 しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ なかった。もしかすると、 電子の誕生の言びを一番しれない。けれども、自 うなたちを受け入れてくれる人がい なかった。もしかすると、 電子の誕生の言びを一番しれない。けれども、自 うたちを受け入れてくれ 市たのは、この主頭いた。ここし、 です。子どもがにいたかも たかったのです。ここに、 が知たちを求成れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 かったのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここ たかったのです。ここに たかったのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのたろれま たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのたのたのです。 たのす。 たのです。 たのです。 たのたちたろの たのです。 たのです。 たのです。<td></td></td> <p< td=""></p<>	としいて、その中で競争に負 が埋まっていた。ここに、 しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ なかった。もしかすると、 電子の誕生の言びを一番しれない。けれども、自 うなたちを受け入れてくれる人がい なかった。もしかすると、 電子の誕生の言びを一番しれない。けれども、自 うたちを受け入れてくれ 市たのは、この主頭いた。ここし、 です。子どもがにいたかも たかったのです。ここに、 が知たちを求成れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 かったのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここ たかったのです。ここに たかったのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのたろれま たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのたのたのです。 たのす。 たのです。 たのです。 たのたちたろの たのです。 たのです。 たのです。 <td></td>	
が埋まっていた。ここに、 し、次号は。 かねたちを救うお方とし が埋まっていた。ここに、 が知るたちを救うお方とし かなれたちを救うお方とし かなれたちを救うお方とし かなれたちを救うお方とし かなれたちを救うお方とし かなれたちを救うお方とし	が埋まっていた。ここに、 し、次号は。 のが埋まっていた。ここに、 し、次号は。 のがあります。彼らにとってそういう出 す。たかったのは、この美を見出 たかったのは、この美を見出 たかったのは、この美を見出 たかったのがあります。彼らにとってそういう出 に、この喜びを一番最初にお伝えになりたか たかったのでしょう。 言れにお伝えになりたか たかったのでしょう。 言なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たたかったのかというと、 「恐れるなんで、です。子どもが生まれた たかったのがあります。彼らにとってそういう出 に、この喜びを一番最初にになった時、 たかったのかというと、 「恐れなんったる」 たかったのかというと、 「恐れなんて、僕なんて」 たかったのがあります。彼らば「主 りかたちは立 です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 たかったのがあります。彼らば「主 りかちのます。彼らば「主 のがあります。彼らば「主 りかたちは立 です。 たかったのがあります。 たかったのかというと、 「恐れるかった。 した。それま が知らせて下さったその なたを無に帰る も、もう恐れ した。それま たかったのです。 ここの のがあります。 です。 たかったのです。 たかったのです。 たかったの ために来られ した。 それま たかったの ために来られ たのです。 たかったの ために来られ たのです。 たか たか たかたの ために 来手 たか たの た の た の た の た の た の た の た の た の た	が埋まっていた。ここに、 です。 なかった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 しれないった。もしかすると、 したったのは、この羊飼いた、 たかったのは、この羊飼いたたちは立ず たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たかったの たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのの たのに来られ した。それま たの たのです。ここに たい たの たちはうか たの たちはう たか たちは たか たかったの たちは した。 たちは たか たか たちは たか たち たちは たか たの たちは たか たの たちは たか たの たち たか たの たち たち たか たの たち たち た た た た た た た た た た た た た
オートン・ なかったのです。ことに しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。たかったのです。ことに たかったのです。ことにです。 たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。こここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たろしかなかった者 たのです。 たのです。 たのに来られ、 たのに来られ、 たのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの たかったの たの たかったの たの たかったの たの たかったの たの たかったの たか たかったの たか たか たか たか たか たか たの たか たの たか た た た た た た た た た た た た た	the set of th	なかったのです。ことに なかったのです。子どもが生まれたなの中で したちを使引入れてくれ なかったのしかすると、 しれない。けれども、自 かかったのは、この主婦の たかったのです。子どもが生まれた たかったのです。子どもが生まれた たかったのです。ことに たかったのです。ことにで す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 たかったのです。ことにで す。夜れなんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのです。ことにで なたちを変引しれない。たかったの しれない。ために来られる場所で す。夜れなかった。 したちたったと語っているの たかったのです。ここに なたちを変引したかったのです。 ここの喜びを一番最初にたちは立 たかったのです。 ために来られる場所。 たこここ たかったのです。 ために来られる ために来られる ために来られ たかったのです。 ために来られ ためにを たかったのです。 ためにを たかったのです。 ために たかったのです。 たかったのです。 ために たかったのです。 ために たかったのです。 ために たかったのです。 ために たかったので たかったので たかったので たかったので たかったので たかったので たかったの ため ため たかったの たのです。 ため ため たのです。 た た た た た た た た た た た た た
競争社会の中で競争に負しれない。けれども、自 す。なお、教 記で休業、5 3日とフと同じ血筋にある 親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 かたちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 すったのは、この喜びを一番最初にお伝えになりたかった。 たかったのです。ここに が知らせて下さったその です。それは御子キリ ストがおられますが、その神 です。神は世界中どこにで もおられますが、その神 です。です。 それは世界中どこにで です。 それば世界中どこにで です。 それば世界中どこにで です。 それば世界中どこにで です。 それば世界中どこにで たかったのを たかったのを見」たかったる も たかったのです。 たかったのです。 と自分の存在意義を見出 たかったのです。 とここ が知らせて下さったその です。 それば御子キリ ストがおられますが、その神 です。 です。 それば世界中どこにで たかったのです。 とここ が知らもます。 です。 それば一番最初にになった時、 たかったのです。 とここ たかったのです。 とここ たかったのです。 とここ たかったのです。 とここ たかったのです。 ために たかったのです。 たかったので たかったので たかったので たかったので ため ためで たので たかった たの ため ため ため た た かったの た か た の た か た か た か た か た か た か た か た	競争社会の中で競争に負1月28日に前私たちを救うお方としこの知らせこにでが私たちを救うお方としこの知らせこにでが私たちを救うお方としこの知らせこにでが私たちを救うお方としこの知らせこにでが私たちを救うお方としこの知らせこにでが私たちを救うお方としこの前いたちは立ちたのです。が私たちを救うお方としこの前いたちは立ちたのです。が私たちを救うお方としこの当りたかが私たちを救うお方としこの当りたかが私たちを救うお方としこの当りたかが私たちを救うお方としこの当りたかが私たちを救うお方としこの当りたかが私たちを救うお方としこの当りたかが私たちを救うお方としこの当りたかが私たちを救うお方としこの知らせが私たちを救うお方としこの目りを明たかったのです。この日うたのたのです。この日うたのたかったのたのです。たかったのたのたのたたかったのたのです。たかったのたのです。たかったのたのです。たかったのたのに来られますが、たかったのたのです。たかったのたのです。たかったのたのです。ためったのたのです。ためったのためたたかためたちは立ちんためたたためったのためたためったのためたためったのためたためたたかったのためったのたかったのためったのたかったのためったのたかったのためったのたかったのためったの	競争社会の中で競争に負1月28日に前私たちを救うお方としこの知らせ、 たかったの です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 たかったのです。ここに1月28日に たかったの なたたちを受け入れてくれ たかったの たかったの です。 たかったのです。ここに1月28日に たかったの です。 たかったのです。 ここの に たかったのです。ここに市本しれない。 けれども、 に たかったのです。 です。 です。 です。 やは 市ためるしかなかった者 です。 たかったのです。 ここに です。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったの です。 たかったの たのです。 たかったの たのです。 たかったの です。 ために ために ために ために たかったの です。 ために ために ためったの たのです。 ため ために ために ために ために ために ため ために ため ため ため ため ため ために ため ために ため ために ため ため ため ため ため ため ため ため ために ため ため ため ため ため ため たのです。 ため た <br< th=""></br<>
はたいない。 しれない。 したちを受け入れてくれ したたたを したかったの したった したった したった したかったの したかったの した たかったの した たかったの した たかったの した たかったの した たかったの した たかったの した たかったの した たかったの たの です。 です。 です。 です。 たかったの たの たの です。 た た かったの た た の か っ た ろ の 、 た う 、 、 た の の た 、 た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の で し っ た の で し 、 た の で し 、 た の た の で し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	はたちなしかなかった。主 なかった。もしかすると、 この男子の誕生の意びを一番最初にお伝えになりたかった。 たかったのです。子どもが生まれたなった。 す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 たかったのです。ここに ために来られ、それま したちは立 たかったのです。ここに ためにたちは立 たかったのです。ここに たかったのです。 ために来られ、 たかったのです。 ために来られ、 たかったのです。 ために来られ、 たかったの たかったの たかったの たかったの たちにをれたの たちにを たかったの たちにを たかったの たちにを たかったの たちにを たかったの たちにを たかったの たちにを たかったの たちにを たかったの たちにを たか たちにです。 たちに たかったの たちに たかったの たちに たかったの たちに たか たちに たか たちに たか	はたるないない。 しれない。 したちを受け入れてくれ した。 たかったの ししょう。 きっと大事な たかったの したったと 語っているの です。 です。 そびしょう。 きっと大事な たかったの した。 たかったの した。 たかったの した。 たかったの した。 たかったの した。 たかったの した。 たかったの した。 たかったの した。 たかったの たか たかったの たか たかったの たか たか たか たか たか たか たか たか たか たか
はた家族がいる。しかも しれない。けれども、自 しれない。されとあるとは、 和したちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 たかったのは、この主要を見出たかった。 たかったのです。ここに たかったのです。 たのです。 たです。 たかったのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たの たのです。 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	はた家族がいる。しかも しれない。はれども、 この知らせて下さったその たかったのです。ここに たがったのです。ここに たがったのです。ここに たがったのです。ここに たがったのです。ここに たがったのです。ここに たがったのです。 ために来られ、その神 にててもうれますが、その神 に てて自身を明 ために来られ、 たのです。 ために来られ、 たのです。 ために来られ、 たのです。 ために来られ、 たのです。 ために来られ、 たのです。 ために来られ、 たの ために来られ、 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	はた家族がいる。しかも しれないったのです。ここに なかったのです。ここにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで なたたちを敷うお方とし か私たちを敷うお方とし か私たちを敷うお方とし か私たちを敷うお方とし
は、この喜びを一番最初にお伝えになりたかった。 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 かたちを受け入れてくれる人がい まで休業、5 日分たちを受け入れてくれる人がい 理書は、神がご自分の です。子どもが生まれたなった時、誰に たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たがったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったの たが たかった たかったの たかった たかった たのです。ここ たかったの たか たかった たのです。 たか たのです。 たか たの たの たか たの たか たの たの たの たの たか たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	は、この喜びを一番最初にお伝えになりたかった。 しれない。たかったのです。ここに なかったのしかすると、 思想したちをを見出 たかったのです。ここに たがったのです。ここに たがったのです。ここに たがったのです。 ために来られ、その神 にてつ教会の説 やの祝福を祈い 、 たの花を無にし母 たかったの ために来られ、 たのです。 ために来られ、 たの たかったの ために来られ、 たの たかったの ために来られ、 たの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たか たかったの たか たか たか たか たか たか たか たか たか たか	は、この喜びを一番最初に伝えになりたかった。 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 かたちを愛け入れてくれる人がい このったのは、この羊飼いたかも しれない。たかったのです。ここに なかった。をしかすったろ このがあります。彼らは「主 もおられますが、その神 です。 本たたちを敷うお方とし か私たちを敷うお方とし たかったのです。ここにで です。 本たったのです。ここにで です。 本たったのです。ここにで です。 本たったのです。ここにで です。 本たったのです。ここにで たかったのです。 ここの言びを一番しいたかも したったのは、この羊飼いた たかったのです。 たかったのです。 ここの言びを一番しいたかも したったたかったの たかったのです。 ここの言びを一番しいたかも したったたかったの たかったのです。 たかったの たかったのです。 たかったの たの たかったの たかったの たかったの たかったの たの たかったの たかったの たの たかったの たか たかったの たの たかったの たの たか たかったの たの たか たか たの たの た た た た た た た た た た た た た
副語の世界中どこにでです。ここに す。渡れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 なかったのです。ここに です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	離も世げてくれる人がい この定す。子どもが生まれになった時、誰に す。渡れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 か知たちを救うお方とし が知たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし か私たちを救うお方とし	離も世げてくれる人がい この この この この たかったの です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。
まで休業、5 ヨセフと同じ血筋にある 親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 行在に伝えるでしょう。 です。子どもが生まれたなった。 たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。こここ たかったのです。ここ たかったのです。こここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったの ために来られ、 たのです。ここ たの ために来られ、 たの たもうか。 たの ため たもの ため たもうの ため たたも たか たの たも たか たの たも たか たの たる場所。 た た たの た た た た た た た た た た た た た	なかった。もしかすると、 まで休業、5 この知らせて下さったその か知らちたったのです。ここに です。 やは、この喜びを一番最初にお伝えになりたか たかったのです。 たかったのです。 このがあります。彼らは「主 か知らせて下さったその か知らせて下さったその なたたちを変引したかったの です。 本は世界中どこにで な私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	はかった。もしかすると、 まで休業、5 この二なかった。もしかすると、 なかった。を見出 たかったのです。ここに なかったのです。ここに なかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに なたたちを変かうお方とし たかったのです。ここに なたたちを変かうお方とし たかったのです。ここに なたたちを変かうお方とし たかったのです。ここに なたたちを変かうお方とし たかったのです。ここに なたたちを変かうお方とし
マーンと同じ血筋にある この定す。子どもが生まれた たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たがったの花都長の たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たかったの たのです。ここに たの一番最初 たたです。 ため たのです。 ため たのです。 ため たのです。 た たの たの たの た た た た た た た た た た た た た	オンパーズをしかったの オンパーズをしかったの 第一次のためです。ここに なたたのです。ここに なたたのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ ために来られる場所で たのです。ここ ためにたらは立 ためにたられ たのです。ここ ためにたのです。 ために ためにたのや ためにたられ ためにたられ ためにたのです。 ために たかったの たのです。 たの たのです。 ために たの たの ために ために ため たの ため たの たの <td< td=""><td>なかった、もしかっとの ヨセフと同じ血筋にある 第天務となり この居場所が たかったのです。ここに なたたちを受け入れてくれ しれない。けれども、自 うたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちなりたか に たかったのしょう。きっと大事な たかったのです。ここに たかったのです。 たのに来られ たのです。 たのに来られ たのです。 たのに来られ たのです。 たの祝福を祈 した。 それま たかったの ために来られ たの たの祝福を祈 した たか たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの</td></td<>	なかった、もしかっとの ヨセフと同じ血筋にある 第天務となり この居場所が たかったのです。ここに なたたちを受け入れてくれ しれない。けれども、自 うたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちなりたか に たかったのしょう。きっと大事な たかったのです。ここに たかったのです。 たのに来られ たのです。 たのに来られ たのです。 たのに来られ たのです。 たの祝福を祈 した。 それま たかったの ために来られ たの たの祝福を祈 した たか たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの
ヨセフと同じ血筋にある 親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ ならにとってそういう出 です。子どもが生まれたなった時、誰に すったのは、この美好の御子がお られます。彼らは「主 が知らせて下さったその す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 たかったのです。ここに たかったのです。 ここに です。 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 す。 海仙におちたったです。 ここに です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	ヨセフと同じ血筋にある 親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 す。たかったのは、この羊飼いた たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 やは、この喜びを一番最初に伝えるでしょう。 に、この喜びを一番最初に伝えるでしょう。 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 や神は世界中どこにで もおられますが、その神 です。 神は世界中どこにで や和なたちを救うお方とし	ヨセフと同じ血筋にある 親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ です。子どもが生まれたなった時、誰に たかったのです。ここに でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な たかったのです。ここに たかったのです。ここ のがあります。彼らは「主 ります。ここ」 たかったのです。ここ が知らせて下さったその神 たかったのです。 てご自身を明 たかったのです。 てご自身を明 たかったのです。 てご自身を開 した。それま たかったのです。 てご自身を開 たかったのです。 てご自身を開 たかったのです。 てご自身を開 たかったのです。 てご自身を開 たかったのです。 てご自身を開 たかったのです。 てご自身を開 たかったのです。 てご る場所。御豆 です。 で ての親子が私
しれない。けれども、自 のがあります。彼らは「王 なたたを教うお方とし たかったのです。ここに なたたです。ここに たかったのです。 たのです。ここに たかったのです。 たのに来られして、それま たのです。ここに たかったのです。 ために来られ たのです。 ために来られ たのです。 ために来られ たのです。 ために来られ たのです。 ために たの たの花福を航 に やの祝福を祈 に なたで たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	親戚もどこかにいたかも うたちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 行在に伝えるでしょう。 ったのは、この喜びを一番しれない。けれども、自 すったのは、この喜びを一番したちだった。 です。子どもが生まれたなった時、誰に すったのは、この喜びを一番最初にお伝えになりたか すったのたのです。ここに なかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 やは、この喜びを一番最初に伝えるでしょう。 すっ、疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 か知らせて下さったその が知らせて下さったその もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 です。子どもが生まれになったらいう出 す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 か知らせて下さったその す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで むおられますが、その神 が私たちを救うお方とし 「私なんて、僕なんて」 この言葉を見出 たかったのです。ここに か知らせて下さったその 市たのです。ここに たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。ここ たかったのです。こここ たかったのです。ここ たかったのです。こここ たかったのです。ここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 ためです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たの たかったの たかったの たかったの たの たかったの たかったの たのです。 たの たのです。 たの たの たのです。 たの たのです。 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの
親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 です。子どもが生まれたなった時、誰に うたったのは、この単一のなんです。 でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な たかったのは、この単間でた たかったのです。ここに たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったの ために来られる場所で たかったの ために来られ たかったの ために来られ たかったの ために来られ たかったの ために来られ たかったの ために たかったの ために たかったの ために たかったの ため たたにも分か た た た た た た た た た た た た た た た た た た た	親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 かたちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 それにない。たかったの です。子どもが生まれたなった。 たかったのです。ここに が知らせて下さったその す。神は世界中どこにで あおられますが、その神 です。 神はたちを救うお方とし になったのは、この 高場所。御忌明 たかったのです。ここに です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	 親戚もどこかにいたかも しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ たかったのは、この手闘いた たかったのは、この羊飼いた たかったのです。ここに たかったのです。す。 たがったのです。す。 たのです。す。 ために来られます。 ために来られます。 ために来られます。 ために来られます。 ために来られ。 ために来られ、 ために来られます。 ために来られます。 ために来られます。 ためになたたちはうかい ために来事を調 ために来ります。 ために来られます。 ために来られます。 たのです。 ためにたちんです。 ためにたられます。 ためにたられます。 たのです。 ためにたちんうかい ためにたちんうかい ために来られます。 たのです。 ためにたちんうか ためにたちんです。 ためにたちんです。 たのです。 ためにたちんうかい ためにたちんうかい たのです。 ためにたちんのです。 ために たのです。
しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ 御子の誕生の喜びを一番したかったの です。子どもが生まれになった時、誰に ったのは、この草切をしょう。きっと大事な かったのです。子どもが生まれたなった。 市本かったのです。ここにで でしょう。きっと大事な たかったのです。ここにで 「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここにで 「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここにで 市本島初にお伝えになりたか たかったのです。ここに たかったのです。 ために来られ たのです。ここに たかったの ために来られ い たのです。 ために来られ たのです。 た ためにたられ た た たのです。 た た た た た た た た た た た た た	しれない。けれども、自 分たちを受け入れてくれ です。子どもが生まれになった時、誰に す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 が私たちを救うお方とし が私たちを教うお方とし	しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 しれない。けれども、自 したちを受け入れてくれ なたちを受け入れてくれ したったの話にしってそういう出 したったと話っているの に伝えたかった です。子どもが生まれになった時、誰に したったのです。そどもが生まれた たかったのです。そどもが生まれた たかったのです。そどもが生まれたなった時、誰に したったのは、この喜びを一番最初にたちは立れ たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。こここ たかったのです。ここに たのです。こここ たかったのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たかったの ためにもうかれ たいの祝福を祈い に したの祝福を祈い
しれない、いれども、自 分たちを受け入れてくれ 御子の誕生の喜びを一番したかったの です。子どもが生まれたなった時、誰に うたのは、この単分の存在意義を見出 たかったのです。ここに です。子どもが生まれたなった時、誰に うたのは、この喜びを一番しいるのです。 です。子どもが生まれたなった時、 でしょう。きっと大事な たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったの ために来られ たのです。 たか ために来られ ために来られ た た た た た た た た た た た た た た た た た た た	しれない いれとも 自 分たちを受け入れてくれ ならにとってそういう出 です。子どもが生まれた をだったと話っているの です。子どもが生まれた なたたを悪いしょう。きっと大事な です。子どもが生まれたなった時、 です。子どもが生まれたなった たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ここ たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ここ たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たのです。 たのに たかったのです。 たのです。 たの ために たかったの ため ため に たの たの た た た た た た た た た た た た た た た た	しれない いれとも 自 分たちを受け入れてくれ る家族はいなかった。主 来事だった。 行在に伝えるでしょう。 きっと大事な です。子どもが生まれになった時、誰に すったのは、この草邸を一番 すったのは、この草邸を一番 したったのは、この羊飼いた たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったの ために来られる場所。 たのです。 たかったの ために来られ たのです。 たかったの ために来られ たのです。 たかったの ために来られ たのです。 たかったの ために来られ たのです。 たの たの たかったの ため たかったの ため たかったの ため たかったの たの たか た た の れ な た た た か た た た た か た た た た た た た た た た
分たちを受け入れてくれ 「 べれ、この高葉を見 「 べれ、この高びを一番最初にお伝えになりたかったの です。子どもが生まれになった時、誰に です。子どもが生まれたなった時、誰に です。ここに でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初にたちは立れ たかったのです。ここに でしょう。さっと大事な に、この喜びを一番最初にたちは立れ たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに たかったの たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのに来られ たのです。ここに たのに来られ たのです。ここに での教会の説 での教会の説 での教会の説 での ての教会の説 での ての たい	分たちを受け入れてくれ 一 イエスを身ごもるとは、 和 一 都にお伝えになりたかった。主 来事だったと、 に たかったのは、この羊飼いた た かったのは、この羊飼いた た かったのは、この羊飼いた た かったのは、この羊飼いた た かったのは、この羊飼いた た かったのは、この羊飼いた た かったのは、この羊飼いた た かったのは、この羊飼いた た かったのたのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た かったのです。 た た の た た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た た の の た の た の た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	分たちを受け入れてくれ 「 、この喜びを一番最初にお伝えになりたかった。主 本事だったと話っているの に、この喜びを一番最初にお伝えになりたか す。疲れや睡眠に勝るものがあります。それは御子 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに 本生まれになった時、誰に した。それま に、この喜びを一番最初にお伝えになり たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。こここ たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに ために来られる場所。 たいこの教会の説 い たのです。 たい ために来られ たむ たかったの ため たのです。 た た の た た た の た た た た た た た た た た た た た
マティンションションションションションションションションションションションションション	マースを見ごもるとは、 す。暗い夜の世 です。子どもが生まれになった時、誰に したったのは、この喜びを一番最初に伝えるでしょう。 です。子どもが生まれになった時、誰に 一番最初にお伝えになりたかったの たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに です。 本生まれになった時、誰に した。それま たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ここに たのです。ここに たがれなかった ために来られますが、その神 に伝えたかった ために来られ たのです。 ために たのです。 ために たのです。 ため ために たのです。 たかったの ために たのです。 た たの たのです。 た た の た た た た た た た た た た た た た	マースを見いなかった。主 マースを見いなかった。主 マースを見いてそういう出 マースを見いたかったのは、この主婦のにお伝えになりたかったのは、この喜びを一番 すったのは、この喜びを一番しかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。こここ たかったのです。 ために来られ たのです。 ために来られ たかったのです。 ために来られ たかったのです。 ために来られ たのです。 ために来られ たのの祝福を祈い たい で一 一 神い祝福を祈い たい たい たい た た た た た た た た た た た た た
マースを身ごもるとは、 一番最初にお伝えになりたかった。主 す。渡れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 か知らせて下さったその す。神は世界中どこにで 教会、それは御子キリ ストがおられますが、その神 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし 本 たかったのです。 たかったのです。 なたを無に帰る たかったのです。 ために来られ、 たのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 ために来られ、 たのです。 た たのです。 た たのです。 た た た た た た た た た た た た た	マースを身ごもるとは、 一番最初にお伝えになりたかった。主 す。渡れや睡眠に勝るものがあります。それは御子を見」たかったのです。子どもが生まれになった時、誰に 一番最初にお伝えになりたかった。 たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。ここに たのにもう恐れ たのです。ここに たのです。ここに たのにもう恐れ たのです。ここに たのにもう恐れ たのです。ここに たのにもう恐れ たのです。ここに たのです。ここに たのにもう恐れ たのです。ここに たのにもかったの ためったのです。 たのてす。 たる場所。 たここ ためれますが、その神 (青山学院	マースを身ごもるとは、 マースを身ごもるとは、 一番最初にお伝えになりたかった。主 す。疲れや睡眠に勝るものがあります。そこにも分かに たかったのです。ここに たかったのの祝福を預
マースを身ごもるとは、 型書は、神がご自分の 御子の誕生の喜びを一番最初に伝えたかった たかったのです。そどもが生まれた たかったのです。ここに たのです。ここに たかったのです。ここに ために来られる場所。そこう のがあります。その神 に伝えたかった ために来られますが、その神 (青山学院	イエスを身ごもるとは、 切子の誕生の言びを一番最初にお伝えになりたかったのなったの。 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったの たかったのです。 たろのです。 たろのです。 たろのです。 たろににも分か たのです。 たろの祝福を祈 に での祝福を祈	マースを身ごもるとは、 一都最初にお伝えになりたかったの に、この喜びを一番最初にお伝えになりたか たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 たたこも分かれたちは立 たかったのです。 たたこも分かた たかったのです。 たたにも分か たかったの たかったの たかったの たかったのです。 たたし たかったのです。 たたにも分か たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たかったの たり たかったの たの たろ たかったの たの たの たろ たかったの たの たの たの た た た た た た た た た た た た た
「ならにとってそういう出」す。暗い夜の 御子の誕生の喜びを一番最初にお伝えになりたかった たかったのは、この草がお した。それは御子がいたのです。 そどもが生まれになった時、誰に 一番最初にお伝えになりたかった たかったのです。そどもが生まれた たかったのです。ここに です。子どもが生まれたなった時、 言い、この喜びを一番最初にに伝えるでしょう。 たかったのです。ここに です。 そどもができず暗闇で横 たかったのです。 この二番最初にお伝えになり たかったのです。 と自分の存在意義を見出 たかったのです。 ここに です。 そどもができず暗闇で横 たかったのです。 ここに でしょう。きっと大事な い。この人を たかったのです。 としょう。きっと大事な い。この知らせ たかったのです。 ここに たかったのです。 ここに たかったのです。 ここに たかったのです。 ここに たかったのです。 ここに たかったのです。 たかったのです。 てご自身を明 たかったのです。 たかったのです。 です。 やります。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 ために来られ たかったのです。 たかったのです。 ために来られ たのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 ために たかったのです。 ために たの ために たの ため に た の れ な た で う た た の た り た か た の た の た た た の た の た の た の た の た の	マースを見てもるとは したったろいう出 す。暗い夜の たかったのです。ここに たかったのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たの ために来られ たのです。 たの ために来られ たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	マームスを見てもるとは、 したったとってそういう出 す。暗い夜の西 です。子どもが生まれたないで、 なたを無に帰ったのは、この羊飼いたちは立 たかったのたと語っているの に伝えたかった たかったのなんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのかというと、 に、この喜びを一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのがあります。彼らは「主 かれなかった者 たのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったののからりて、 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たのです。 たかったののからります。 たのです。 たかったのです。 たのです。 たかったのの たかったのです。 たのです。 たのです。 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの
彼らにとってそういう出 す。暗い夜の 一です。子どもがにたるでしょう。 電視にお伝えになりたかった ったのは、この羊飼いた ちだったと話っているの なたを無に帰 です。子どもがたったと話っているの なたを無に帰 です。子どもができず暗闇で横 たかったのです。ここに 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのです。ここに たかったののがあります。 たのです。ここに たかったののがあります。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たの ために来られ たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	 一被らにとってそういう出す。暗い夜の 一要書は、神がご自分の 「恐れるな」 「恐れるな」 「恐れるな」 「ひしょう。きっと大事な 「たかったのになった時、誰に 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのです。ここに たかったのです。こここ たかったの たがったのです。 たかったの たいこり身を明 ために来られ たかったの ために来られ たのです。 ために来られ ために来られ ために来られ ために たの祝福を祈い 	- 彼らにとってそういう出 - 彼らにとってそういう出 - です。子どもが生まれた なたを無に帰 ちだったと話っているの です。子どもが生まれた なたを無に帰 たかったのは、この羊飼いた たかったのたと話っているの です。子どもが生まれたなった時、誰に - 番最初にお伝えになりたか たかったのです。ことに たかったのです。ことに たかったのです。ここに 本もおられますが、その神 - です。 - でか。 - です。 - でです。 - ででいた - ででしょう。 - この知らせた - です。 - での - でです。 - でで」 - での - でで」 - での - でで」 - での - でで」 - での - での - でで - で - で - で - で - で - で -
型書は、神がご自分のに伝えたかった のたのは、この羊飼いたちは立ちだったと話っているのなたを無に帰ちだったと話っているのなたを一番したかったのです。ここにでしょう。きっと大事なに、この真びを一番最初にお伝えになりたかったのです。一番最初にお伝えになりたかったのです。ここにでしょう。きっと大事なになった時、誰にした。それましたかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにて、たかったのです。ここにです。 です。たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにて、たかったのです。 です。 たかったのです。ここにて、 たかったのです。ここにて、 たかったのです。ここにて、 たかったのです。ここにて、 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここに、 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここに、 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たつこう。 たかったのです。 たのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの たの たかったの たの たかったの たかったの たの たかったの たかったの たの たかったの たの たか た り たかったの た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	型書は、神がご自分のに伝えたかったのです。一個子の誕生の喜びを一番したかったのは、この羊飼いたちだったと話っているのです。ここにでしょう。きっと大事なに伝えるでしょう。きっと大事なになった時、誰にしたったのかというと、「私なんて、僕なんて」と自分の存在意義を見出たかったの御子がおしたのです。ここにでしょう。きっと大事なになった時、誰にした。それます。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主がったのです。ここにです。 たかったのです。ここにて、どれるな」でしょう。きっと大事なになった時、誰にした。それは御子がおられる場所です。ここにて、この言葉を聞いたかった者です。ここにです。です。なたにも分かいです。それは御子キリストがおられる場所です。 か私たちを救うお方とし	型書は、神がご自分のに伝えたかった 御子の誕生の喜びを一番いるのです。 行れてたと語っているのに伝えたかった たかったのは、この羊飼いたちは立ちだったと話っているのです。 でしょう。きっと大事ないたちは立ちたったのは、この羊飼いたちは立ちたったと話っているの でしょう。きっと大事ない。この人を でしょう。きっと大事なにたちは立ちたかったのです。 一番最初にお伝えになりたかったの たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 やは、この喜びを一番最初に伝えるでしょう。 市なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 やは世界中どこにで やの祝福を祈られる場所で です。 やは世界中どこにで やの祝福を祈り たかったちを救うお方とし
聖書は、神がご自分の に伝えたかっ 。 御子の誕生の喜びを一番 したったと話っているの です。子どもが生まれた たかったのたこです。子どもが生まれた たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。 たろにも分か たのです。 たろし たかったのです。 たこし たかったの ために たので たの た た た た た た た た た た た た た た た た	聖書は、神がご自分の に伝えたかった のたのは、この美がお たかったのです。ここに です。一番最初にお伝えになりたか たかったのです。ここに でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初 におったのです。ここに が知らせて下さったその す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 です。 やねたちを救うお方とし	聖書は、神がご自分の に伝えたかった のたのは、この羊飼いた ちだったと語っているの です。子どもが生まれた たかったのです。ここに でしょう。きっと大事な たかったのです。ここに でしょう。きっと大事な たかったのです。ここに でしょう。きっと大事な たかったのです。ここに たかったのです。ここに でしょう。きっと大事な たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 やは、この喜びを一番最初になたた。 に、この喜びを一番最初にたちは立 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。。 本は世界中どこにで もおられますが、その神 です。 で したちを救うお方とし
聖書は、神がご自分の に伝えたかった です。子どもが生まれた たかったのは、この羊飼いた たかったのです。子どもが生まれた す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 が知らせて下さったその す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。彼んたちを救うお方とし	聖書は、神がご自分の 同子の誕生の喜びを一番 同いたちは立 たかったのは、この羊飼いた たかったのです。子どもが生まれた たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 ためにもう恐れ たのです。 ために たのです。 ため ために たの ため た た た た た た た た た た た た た た た た た	聖書は、神がご自分のに伝えたかったのは、この羊飼いたちは立ちだったと話っているのなたを無に帰ったかったのは、この羊飼いたちは立ちだったと、「私なんて、僕なんて」と自分の存在意義を見出たかったるしかなかった者最初にお伝えになりたかったのです。それも、この喜びを一番最初にお伝えになりが知らせて下さったそのかというと、「私なんて、僕なんて」と自分の存在意義を見出たかったのです。ここにです。です。です。です。です。です。です。です。です。です。です。です。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。たかったのです。たかったのです。ここにです。です。です。です。です。です。です。です。です。です。です。です。です。で
■1111 キャンピータの 「恐れるな」。 一番最初にお伝えになりたか ったのは、この羊飼いた ちだったと話っているの です。子どもが生まれた なたを無に帰ったのったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのです。ここに です。子どもが生まれた たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 本は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで 本たられるちを救うお方とし した。をれば御子キリ たかったのです。ここに です。 本は世界中どこにで 本なたちかったの たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 本もるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。こここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 ためてす。 ために来られる場所。 御言葉を 一番最初に たかったの ために来られ たのです。 たの ために来られ たの ために来られ たの ために来られ たの ため たか たの たの たの たの たの たの たの たの たの た た た た た た た た た た た た た	■111111111111111111111111111111111111	■1111 キャンシー番 いるのです。 一番最初にお伝えになりたか 「恐れるな」 たかったのは、この羊飼いた おうお方が生た たかったのです。ここに この す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 ります。ここにで す。確は世界中どこにで 神の祝福を祈り もおられますが、その神 「私なんちを救うお方とし
御子の誕生の喜びを一番 いるのです。 一番最初にお伝えになりたか 「恐れるな」 ったのは、この羊飼いた お生まれにな ったかったのです。子どもが生まれた たかったのです。ことにで す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 か知らせて下さったその す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで 本和たちを救うお方とし	御子の誕生の喜びを一番 いるのです。 一番最初にお伝えになりたか 「恐れるな」 ったのは、この羊飼いた お生まれにな ったったと語っているの なたを無に帰 ちだったと語っているの なたを無に帰 たかったのです。ここに なたたも気は立 本 たかったのです。ここに たかったのです。ここに なたたいたろい たかったのです。ここに たかったのです。ここに なたたらは立 本 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに なたにも分かた た かれなかったの たのです。ここに た たの花をを敷うお方が生 た なたにも分か たのです。ここに た の たの花にも分か た の たの た た た た た た た た た た た た た	御子の誕生の喜びを一番 いるのです。 御子の誕生の志かったのは、この羊飼いた れったのは、この羊飼いた お生まれになった時、誰に ったのは、この羊飼いた お生まれにな たかったのです。ここに この「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに この「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに この「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに この「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに この言葉を開 たかったのです。ここに この言葉を開 たかったのです。ここに この言葉を問 たかったのです。ここに この言葉を問
最初にお伝えになりたか ったのは、この美部でしょう。 きっと大事な です。子どもが生まれた うたったと語っているの です。子どもが生まれた です。子どもが生まれた です。子どもが生まれた です。子どもが生まれた です。子どもが生まれた たかったのです。ここに です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	最初にお伝えになりたか ったのは、この単しいたちは立ちだったと語っているの です。子どもが生まれた ったのは、この単しいうと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのです。ここに です。病れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 が知らせて下さったその す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 です。 神は、ちを救うお方とし 「恐れたちなう。 です。 のがあります。彼らは「主 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	最初にお伝えになりたか ったのは、この美部でしょう。 でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初に伝えるでしょう。 たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。 ために来られる ために来られ ために来られ たのです。 たこ たの ために来られ たの ために来られ たの たの たの たの た の た の た の た の た の た の た
「私たちを救うお方とし」	「私たちを救うお方とし」 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	「私にたのは、この羊飼いたないた。 たかったのは、この羊飼いたないた。 たかったのです。ここにです。子どもが生まれたなった時、誰にした。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。ここにです。 たかったのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのに たのために たのたのです。 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの
ったのは、この羊飼いた ちだったと語っているの なたを無に帰 ちだったと話っているの なたを無に帰 たかったのです。子どもが生まれた たわるしかなかった者 に、この喜びを一番最初に伝える です。 やは、ご自分の御子がお たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 です。 です。 それは御子キリ たかったの が私たちを救うお方とし	ったのは、この羊飼いたちは立ちだったと語っているのなたを無に帰ちだったと話っているのなたを無に帰ちだったと話っているのなたを無に帰ったかったのです。子どもが生まれたなった時、誰にした。それになった時、誰にした。それになった時、誰にした。それになった時、誰にした。それになった。それになったのがあります。彼らは「主がったのです。ここにす。病れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主がったのです。ここにす。病れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主がったのです。ここにす。神は世界中どこにです。 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	ったのは、この羊飼いた ちだったと語っているの なたを無に帰 です。子どもが生まれた うきでしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初に伝える でしょう。きっと大事な たかったのかというと、 に、この喜びを一番最初にお伝えになり たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。 ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ たのです です。 です です で たのです た た た た た た た た た た た た た た た た た た た
ちだったと語っているの なたを無に帰 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	ちだったと語っているの です。子どもが生まれた ったかったのです。ここに です。存在に伝えるでしょう。 たかったのです。ここに たがったのです。ここ たのです。ここに たがったのです。ここに ために来られる場所で たのです。ここ ために来られ たのです。ここ たのです。ここ たのです。ここ たのです。 たのです。 たの ためにたの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	ちだったと語っているの です。子どもが生まれた うたかったのです。ことにで す。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 たかったのです。ここに たかったのです。 たの言葉を聞 たかったのです。 たのに来られ ために来られ ために来られ ために来られ たの ために来られ たの たの たの たの たの たの たの た た た た た た た た た
です。子どもが生まれた ったかったのです。子どもが生まれた ったかったのです。そどもが生まれたなった時、誰に 一番最初にお伝えになり たかったのです。ここに 「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに です。 です。 をかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 本は世界中どこにで です。 やははできず時闇で横 たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たのです。 たかったのです。 たのです。 たかったのです。 たのです。 たかったのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの ため たのです。 たの たので たので たので たので たので たので たので	です。子どもが生まれた ったのったのかというと、 たかったのです。そともが生まれた です。子どもが生まれたなった時、誰に 一番最初に伝えるでしょう。 たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。神は世界中どこにで やび数合いたちを救うお方とし	です。子どもが生まれた ったわったのです。こと大事な に、この喜びを一番最初に伝える たかったのです。ここに たのです。ここに たのです。 たこした。それま たのです。 たこした。 たのです。 たこした。 たのです。 たこした。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たの たのです。 たの たのです。 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの
です。子どもが生まれた です。子どもが生まれた です。子どもが生まれた です。 でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初に伝える に、この喜びを一番最初に伝える に、この喜びを一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 たかったのです。ここに たかったのです。 たひるしかなかった者 たのです。 たつるしかなかった者 たのです。 たつこ す。 やれば世界中どこにで 神の祝福を祈い たのでま で ての教会の説い たろに した。 それま	です。子どもが生まれた のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 をおられますが、その神 は、この喜びを一番最初にたちは立 たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。 たかたちは立 たかったの たかた たかったの たか たか たか たか た た た た た た た た た た た た た	です。子どもが生まれた です。子どもが生まれた でしょう。きっと大事な やたかったのかというと、 に、この喜びを一番最初に伝える でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初にお伝えになり たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 本社単に勝るものがありま です。 や知らせて下さったその もおられますが、その神 です。 や和たちを救うお方とし
ら誰に一番最初に伝える でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 たかったのかというと、 たかったのです。ここに たかったのです。 たつず たかったのです。 たつ たかったのです。 たつ たのです。 たこ たかったの たの たの たの た た た た た た た た た た た た た	でしょう。きっと大事な でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初に伝える を在に伝えるでしょう。 神は、ご自分の御子がお たかったのかというと、 たかったのです。ここに たのです。ここ たのです。ここに たのです。ここ たのです。ここに たのです。ここ たのてす。 たのです。 ため ために ため たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 です。 です。 や神は世界中どこにで もおられますが、その神 です。 や私たちを救うお方とし
でしょう。きっと大事なに、この気を見出した。それまでしょう。きっと大事なになった時、誰にした。それまで、どうのがあります。彼らは「主がったのです。ここにです。です。です。それは御子キリストがおられますが、その神ば世界中どこにでです。それは御子キリなたかったのです。です。それは御子キリです。神ば世界中どこにでです。です。	でしょう。きっと大事なに、この人を行ったのかというと、この男子がおした。それまで、この喜びを一番最初にお伝えになりたかったのです。ここにです。一番最初にお伝えになりたかったのかというと、「私なんて、僕なんて」と自分の存在意義を見出たかったのかというと、「私なんて、僕なんて」との言葉を聞たわるしかなかった者に、この喜びを一番最初にお伝えになりが知らせて下さったそのかというと、「さったのです。ここにです。です。それは御子キリストがおられますが、その神ば世界中どこにででの教会の説があります。彼らば「主いったのです。」との言葉を聞たかったのです。ここにです。それは御子キリストがおられますが、その神ば世界中どこにでです。ここにです。の出来事を見たかったのです。ここにです。です。の出来事を見たかったのです。ここにです。それは御子キリストがおられますが、その神ば世界中どこにででか。	でしょう。きっと大事なに、この人を行ったのなたにも分の御子がおした。それまです。ここにです。ここにです。たかったのです。ここにです。一番最初にお伝えになりたかったのかというと、「私なんて、僕なんて」と自分の存在意義を見出たかったのかというと、「私なんて、僕なんて」に、この喜びを一番最初にお伝えになりが知らせて下さったそのためです。ここにです。です。それは御子キリのがあります。彼らは「主いたかったのです。ここにです。それは御子キリのがあります。彼らは「主いたのです。ここにです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ここにです。たかったのです。ために来られますが、その神の祝福を祈られますが、その神の祝福を祈られますが、その神です。
でしょう。きっと大事な に、この喜びを一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 たかったのかというと、 に、この喜びを一番最初にお伝えになり たかったのです。ここに たかったのです。 たつてす。 たつてす。 たつために来られ たのです。 たつ たのにま たのです。 たつ たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	でしょう。きっと大事な い。この人を でしょう。 この知らせ、 この 単は、 こ 自分の 得在 意義を見出 たかったの かというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の 存在 意義を見出 たかったの かあります。疲れや睡眠に勝るものがあります。夜らは「主 かったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。 それは御子キリ たかったのです。 それは御子キリ たかったのです。 ここ に て ご 自身を 明 に 天 ら れ ら れ た ち た に ち かった の が お い た の で す 。 神 は 世 界 中 ど こ に で の 教会 、 そ れ は 御 子 ギリストが お ら れ ま す が 、 そ の 花 に も 分か で す 。 神 は 世 界 中 ど こ に で の 教 会 が れ た ち を 救 う お 方 と し	でしょう。きっと大事なにしたった。 神は、ご自分の御子がお たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに たかったのです。 たつご自身を明 たかったのです。 たのです。 たのです。 たつご たのです。 たつご たのです。 たつご たので たので たので たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの
存在に伝えるでしょう。 一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 ためのがあります。 たらに下さったその ために来られ たのです。 ために来られ たのです。 たのです。 たの ために来られ たのです。 たの ために来られ たの ために来られ たの ために来られ たの ため たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	存在に伝えるでしょう。 神は、ご自分の御子がお たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 たかったのかというと、 たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。ここに たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たのです。ここ たかったのです。ここ たかったのです。ここ たのです。ここ ためにも分か	存在に伝えるでしょう。 神は、ご自分の御子がおしたちは立 す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 りまっ。たかったのです。ここに です。 もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし
それになった時、誰に 一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たかったのです。ここに です。 です。 です。 です。 やねたられますが、その神 が私たちを救うお方とし	イイにんちょうで、その神は世界中どこにで もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし	イイにんちょうでした。 一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たのです。 たのです。 たかったのです。 たる場所。 やりストが私 ために来られ、 たのでの たのです。 ための ための ための たその ための た た た た た た た の た た た た た た た た た た た た た
神は、ご自分の御子がお 飼いたちは立 中は、ご自分の御子がお 飼いたちは立 たかったのかというと、 伏していた。 たかったのかというと、 伏していた。 ここ こ この喜びを一番最初 へムへ行こう たわるしかなかった者 だのです。 たかったのです。 ここに この喜びを一番最初 へムへ行こう たかったのです。 たかにもうかい たかに ちょう たかったの ために来られ した。それま します。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかったのです。 たかにもうかい たかにものがあります。 たかったの ために来られ した。 ために来られ した。 それ にもうか たか たか に した。 それ に した。 それ に しかなかった お に しかなかった む に しかな た に しかか い か た い た い た い た い た い た い た い た い た	神は、ご自分の御子がお 飼いたちは立 やりストがおられますが、その神は世界中どこにで 神の祝福を祈られたちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	神は、ご自分の御子がお 飼いたちは立 がれなかったのです。ここにで す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 ります。友れや睡眠に勝るものがあります。疲れや睡眠に勝るものがあります。夜れや睡眠に勝るものがあります。夜れや睡眠に勝るものがあります。夜れや睡眠に勝るものがあります。夜れや睡眠に勝るものがあります。それは御子キリ たかったのです。ここに てご自身を明ったかったのです。ここに てご自身を明ったかったのです。ここに てご自身を明ったかったのです。ここに てご自身を明ったかったのです。ここに てご自身を明ったかったのです。 ちわるしかなかった者 だのです。 ここに かったのです。 ここに ひからして下さったその キリストがおられる場所で ての教会の説 なたにも分かい ために来られますが、その神 (青山学院)
生まれになった時、誰に 一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 い知らせて下さったその す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで 神の祝福を祈 の初たちを救うお方とし	生まれになった時、誰にした。それまであったのかというと、 「私なんて、僕なんて」と自分の存在意義を見出たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」との言葉を聞いたかったのです。 たかったのです。ここにて、 たかったのです。ここにて、 たかったのです。ここにです。 す。神は世界中どこにでです。 もおられますが、その神 です。 もおられますが、その神 です。 本は御子キリの出来事を見たかったのです。 です。 です。 本は世界中どこにでです。 ての教会の説 のがあります。 たかったのです。 とここでです。 です。 もおられますが、その神 です。 もおられますが、その神 です。 もおられますが、その神 です。 もおられますが、その神 です。 もおられますが、その神 です。 もおられますが、その神 です。 本して下さったその たかったのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たのです。 たの たのです。 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	生まれになった時、誰にした。それまです。 たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出したがったのです。 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに この喜びを一番最初 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに このがあります。彼らは「主 たかったのです。ここに この書びを一番最初 たかったのです。ここに この声があります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のために来られ る場所。御言 たいったのです。こここ ここに です。 たかったの たのです。こここ ここに です。 たかったの たのに来られ こここ です。 たかったの たのに来られ ために来られ の出来事を記 の出来事を記 の出来事を記 の出来事を記 の出来事を記 の出来事を記 の出来事を証 の、その神 (青山学院
一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 に、この喜びを一番最初 になったのです。ここに たかったのです。ここに です。 をれは御子キリ たかったのです。たその です。 やねたられますが、その神 です。 で私たちを救うお方とし	一番最初にお伝えになり たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 すことができず暗闇で横 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 や知らせて下さったその す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院 たかったらを救うお方とし	生まれになった時、誰にした。それまです。 です。 あなんて、どなんて」 たかったのかというと、 「私なんて、どなんて」 たかったのかというと、 「私なんて、どなんて」 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 教会、それは御子キリ たかったの満所。 です。 です。 本は世界中どこにで での教会の説 です。 です。 です。 たかったのです。 ここ たかったのです。 たこ たかったのです。 たここ たかったのです。 たここ たかったのです。 たこ たかったのです。 たここ たかったのです。 たここ たかったのです。 たこ たかったのです。 たこ たかったのです。 たこ たかったのです。 たこ た た た た た た た た た た た た た た た た た た
一番最初にお伝えになり がれなかった です。 です。 やいたられますが、その神 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし 一番最初にお伝えになり が私たちを救うお方とし	一番最初にお伝えになり がれなかったの たかったのかというと、 たかったのかというと、 たかったのかというと、 たかったのです。ここに たかったのです。 たるしかなかったの ために来られ たのです。 たこも分か ために来られ ため ために来られ たの ため ため ため ため ため ため たか たの た ります。 た た た か た た た た た た た た た た た た た た た	一番最初にお伝えになり がれなかった です。 です。 です。 や もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし 一番最初にお伝えにで かったのです。ここに です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。
 □ 酒量をにおらえたが、その神の祝福を祈られますが、その神 ○ があられますが、その神 ○ があられますが、その神 ○ があられますが、その神 ○ があられますが、その神 ○ があられますが、その神 ○ かおられますが、その神 ○ かねたちを救うお方とし 	ー 者員名にお伝えにため、 たかったのかというと、 「私なんて、僕なんて」 と自分の存在意義を見出 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 やは世界中どこにで やの祝福を祈 たい たいたちを救うお方とし	ー 者員名にお伝えにため、 たかったのかというと、 に、この喜びを一番最初 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 です。 もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし
に、この喜びを一番最初 すことができず暗闇で横 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 です。 です。 やいたのです。たとにで す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし	に、この喜びを一番最初 すことができず暗闇で横 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 です。 もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし たかったちを救うお方とし	に、この喜びを一番最初 すことができず暗闇で横 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 かか知らせて下さったその 中のがあります。彼らは「主 なんて、僕なんて」 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 や知らせて下さったその ために来られる場所で もおられますが、その神 です。 や何祝福を祈 たかったらを救うお方とし
「私なんて、僕なんて」との言葉を聞いたのです。それは御子キリストがおられますが、その神です。ここにです。です。です。です。、それは御子キリストがおられますが、その神の祝福を祈られたちを救うお方とし	「私なんて、僕なんて」との言葉を聞いたのです。それは御子キリストがおられますが、その神(青山学院もおられますが、その神(青山学院もおられますが、その神(青山学院	「私なんて、僕なんて」との言葉を聞いたかったのです。たわるしかなかった者に、この喜びを一番最初に、この喜葉を見られた。
「私なんて、僕なんて」 この言葉を開 たかったのです。ここに たわるしかなかった者 だのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに こ のがあります。彼らは「主 ります。ここ が知らせて下さったその ために来られ です。 れや睡眠に勝るものがありま す。神は世界中どこにで 神の祝福を祈 もおられますが、その神 (青山学院	「私なんて、僕なんて」 この言葉を開 たわるしかなかった者 だのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たわるしかなかった者 たのです。 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに ちょったのです。 す。疲れや睡眠に勝るも のがあります。彼らは「主 ります。ここ が知らせて下さったその キリストが私 たちられますが、その神 です。 もおられますが、その神 (青山学院	「私なんて、僕なんて」 この言葉を開 たわるしかなかった者 だのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここ のがあります。彼らは「主 ります。ここ が知らせて下さったその キリストが私 いおられますが、その神 (青山学院
と自分の存在意義を見出上がったのです。 たわるしかなかった者だのです。ことに、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初にかったのです。ここにに、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、この喜びを一番最初に、このです。ことがったのです。こことが知らせて下さったそのです。こことが知らせて下さったそのためにあるものがあります。こことが知らせて下さったそのです。こことが知らせて下さったそのためにあるものがあります。こことが知らせて下さったそのです。こことがです。こことがです。こことがです。こことがです。こことがです。こことがです。こことがなられますが、その神に世界中どこにで、ここの音がです。こことがったる	と自分の存在意義を見出 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院	と自分の存在意義を見出上がったのです。 すことができず暗闇で横ったのです。 たわるしかなかった者だのです。 に、この喜びを一番最初 たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 です。 をれは御子キリ たかおられますが、その神 です。 やは世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院
と自分の存在意義を見出したかったのです。すことができず暗闇で横ったのです。ここにて、この喜びを一番最初 へムへ行こう」であったのです。ここに てご自身を明れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 ります。ここに てご自身を明れや睡眠に勝るも る場所。そここが知らせて下さったその キリストがおられる場所です。 ために来られる場所です。 ために来られる場所です。 ために来られる場所です。 ために来られる場所です。 ためにたりかいたの ために来られいが知らせて下さったその キリストが私したちを救うお方とし しかったのです。 (青山学院	と自分の存在意義を見出したったのです。すことができず暗闇で横ったのです。ここにて、この喜びを一番最初 へムへ行こうす。疲れや睡眠に勝るものがあります。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 ります。ここにが知らせて下さったその ために来られもおられますが、その神ば世界中どこにで 神の祝福を祈られなたちを救うお方とし しかったのです。ご	と自分の存在意義を見出したったのです。 すことができず暗闇で横ったのです。 たわるしかなかった者だのです。 に、この喜びを一番最初 たかったのです。ここに です。 教会、それは御子キリ たかおられますが、その神 が私たちを救うお方とし
すことができず暗闇で横 ったのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たわったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 が知らせて下さったその キリストが私 のがあります。彼らは「主 ります。ここ が知らせて下さったその キリストが私 です。 です。 それは御子キリ の出来事を乱 ストがおられる場所で ての教会の説 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	すことができず暗闇で横ったのです。 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに す。疲れや睡眠に勝るも のがあります。彼らは「主 ります。ここに す。疲れや睡眠に勝るも る場所。そこ す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院	すことができず暗闇で横 ったのです。 たわるしかなかった者 だのです。 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。彼らは「主 ります。こここ が知らせて下さったその キリストが私 です。 れい世界中どこにで 神の祝福を祈 もおられますが、その神 (青山学院
はしたのです。 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たわるしかなかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに です。 たかったのです。彼らは「主 が知らせて下さったその す。疲れや睡眠に勝るも のがあります。彼らは「主 か知らせて下さったその たのです。ここに たかったのです。ここに なたにも分かい たのです。 ためったのです。 たの たのです。 たのです。 たの たの たのです。 たの たの たの たの たの たの たの たの たの たの	するとれてきす暗闇て横 たわるしかなかった者 に、この喜びを一番最初 たかったのです。ここに たかったのです。ここに でご自身を明 たかったのです。ここに です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で もおられますが、その神 (青山学院 や私たちを救うお方とし	するとれてきす暗闇て横 たわるしかなかった者 に、この喜びを一番最初 たかったのです。ここに です。 です。 教会、それは御子キリ たかったのです。ここに です。 教会、それは御子キリ たかったの です。 なたにも分かい ために来られる場所で ての教会の説 です。 です。 なたにも分かい ために来られる場所で ての教会の説 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。
たわるしかなかった者 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 たかったのです。ここに でごす。 です。 たかったのです。ここに に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 にのです。 にここ に たかったのです。ここに に たかったのです。 にここ に たかったのです。 にここ に たかったのです。 にここ に た のがあります。 彼らは に 王 ります。 に た の た め に 来 ら れ に 勝る も の が あります。 で た た の た の た の た た た ろ の た の た の た た ろ の た の た	たわるしかなかった者 に、この喜びを一番最初 たかったのです。ここに たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに です。 です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院	たわるしかなかった者 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 にたわったのです。ここに に、この喜びを一番最初 にたります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 ります。ここに です。 たかったのです。ここに に たかったのです。ここに に たかったのです。ここに に たります。 たります。 た た た た た た た た た た た た た た た た た た た
たれるしかたかった者 たかったのです。ここに たかったのです。ここに てご自身を明っ たかったのです。ここに です。 教会、それは御子キリ たがったのです。ここに です。 本にも分かい です。 やは世界中どこにで やの祝福を祈 もおられますが、その神 (青山学院	に、この喜びを一番最初 に、この喜びを一番最初 たかったのです。ここに ために来られ たのにも分か たのです。 ためにも分か	たれるしかたかった者 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で もおられますが、その神 (青山学院 が私たちを救うお方とし
に、この喜びを一番最初 へムへ行こう たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 なかあります。彼らは「主 ります。ここに が知らせて下さったその ちります。ここに が知らせて下さったその ために来られ や年期に勝るものがありま る場所。御言 たかったの です。 です。 たかったのなたにも分かい です。 やれば世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで	に、この喜びを一番最初 へムへ行こう たかったのです。ここに てご自身を明っ たかったのです。ここに てご自身を明っ が知らせて下さったその ために来られ が知らせて下さったその ために来られ が知らせて下さったその ために来られ です。 す。神は世界中どこにで 神の祝福を祈い もおられますが、その神 (青山学院	に、この喜びを一番最初 へムへ行こう たかったのです。ここに てご自身を明 なかったのです。ここに てご自身を明 が知らせて下さったその です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで 神の祝福を祈 もおられますが、その神 (青山学院
に、この喜しを「著員将」へユく行した。 たかったのです。ここに てご自身を明、 たかったのです。ここに てご自身を明、 たかったのです。ここに てご自身を明、 たかったのです。ここに なたにも分から す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで やの祝福を祈 なたにも分から たる場所で ての教会の説 です。 本りたがおられる場所で です。 本りたがおられる場所で です。 ためったの です。 本りたがおられる場所で です。 ためったのです。ここ なたにも分から です。 たかったのです。 たの たかったのです。 たの たの たの たの たろ た た た た た た た た た た た た た	に、この喜しを「君長利」へユく行した。 たかったのです。ここに しまに勝るものがありま なたにも分から たかったのです。ここに します。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに します。ここに なたにも分から です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで やの祝福を祈 なたにも分から ために来られ。 に形 る場所。御言 です。 やは世界中どこにで 神の祝福を祈	に、この喜てを「著員将」へユく行てたいったのです。ここに します。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 ります。でしたです。ここに のがあります。彼らは「主 ります。ここに が知らせて下さったその やリストがおられる場所で ての教会、それは御子キリ ストがおられる場所で ての教会の説 もおられますが、その神 (青山学院
たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 が知らせて下さったその ために来られ です。 たかったの ために来られ る場所。 そこ たかったの ために来られ なたにも分か なたにも分か です。 す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。 やは世界中どこにで す。 です たかったの です。 たかったの ため に た ります。 た か た の た る 場所。 得 二 い や に に ろ 切 の が る 場所。 そこ	たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 たかったの です。 をれは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 です。 や川ストが私 ために来られ です。 です。 です。 もおられますが、その神 (青山学院	たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに です。 です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし
たかったのです。ここに てご自身を明れたかったのです。ここに てご自身を明れたいです。 たかったのです。ここに てご自身を明れたいです。 です。 たかったのです。ここに です。 たかったのです。ここに てご自身を明れたいです。 ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために来られ ために たり たかったの です。 たかったの です。 たかったの です。 たかったの です。 たかったの です。 たかったの です。 たかったの です。 たかったの です。 たかったの ため に 来られ た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 です。 す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院	たかったのです。ここに てご自身を明ったかったのです。ここに てご自身を明ったかったのです。 です。 教会、それは御子キリ たかったのです。ここに です。 や知らせて下さったその ために来られ なたにも分から です。 やれば世界中どこにで やの祝福を祈 の初ありますが、その神 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。
たかったのです。ここに てご自身を明れたかったのです。ここに てご自身を明れたいに、その神が知らせて下さったその ために来られ、御豆す。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主 ります。ここに おおられますが、その神の祝福を祈られますが、その神の祝福を祈られたちを救うお方とし ての教会の説	たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 が知らせて下さったその ために来られ です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で もおられますが、その神 です。 やは世界中どこにで す。神は世界中どこにで やの祝福を祈 です。 です。 です。 たかったの です。 もおられますが、その神 (青山学院	たかったのです。ここに てご自身を明 たかったのです。ここに てご自身を明 が知らせて下さったその です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で ての教会の説 もおられますが、その神 (青山学院
たかったのです。ここにで、ここに、でで目見を明 たかったのです。 のがあります。彼らは「主 ります。こここ が知らせて下さったその です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院	たかったのです。ここにで、ここに、でで目りなります。疲れや睡眠に勝るものがあります。彼らは「主ります。そここのがあります。彼らは「主ります。そここのがあります。彼らは「主なかったのために来られ」、やがおられますが、その神の祝福を祈望したかったのために来られ、す。神は世界中どこにです。 もおられますが、その神の祝福を祈望したかったのです。 です。 す。神は世界中どこにで神の祝福を祈望したかったのです。 もおられますが、その神(青山学院)	たかったのです。ここにででは見る明 でです。 のがあります。彼らは「主 ります。こここでです。 をれい輝子キリ たかったの ために来られ です。 教会、それは御子キリ たかったの ために来られ る場所。 の出来事を見」たかったの ために来られ です。 です。 本は世界中どこにで やの祝福を祈 もおられますが、その神 です。 です。 たかったの ために来られ です。 です。 です。 です。 です。 たかったの ために来られ です。 です。 たかったの ために来られ です。 です。 たかったの ために来られ です。 です。 たかったの ために来られ た での 教会、それは御子キリ
は事に勝るものがありま る場所。そここ です。 たれや睡眠に勝るも る場所。そここ です。 たかったの ために来られ なたにも分かい です。 です。 たかったの ために来られ る場所。 そここ のがあります。 彼らは「主 ります。こここ のがあります。 です です。 たかったの ために来られ です。 です です。 たかったの ために た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	は事に勝るものがありま る場所。そここ です。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で もおられますが、その神 が知ちせて下さったその ために来られ る場所。そこう のがあります。彼らは「主 ります。こここ のけま。 たかったの ために来られ の出来事を 記 す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで ですの祝福を祈 る場所。御言	は事に勝るものがありま る場所。そこれの が知らせて下さったその やリストがおられる場所で もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし
たります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 ります。こここ やったの ために来られ なたにも分かい す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで やの祝福を祈 る場所。そここ の出来事を見」たかったの ために来られ です。 ての教会の説 ての教会の説 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	たります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 のがあります。彼らは「主 ります。こここ やったの ために来られ なたにも分かい ために来られ もおられますが、その神 です。 やは世界中どこにで やの祝福を祈 もおられますが、その神 (青山学院	たりますが、その神 です。 です。 です。 やいおられる場所で ためったの ために来られ のがあります。彼らは「主 ります。こここ たかったの ために来られ なたにも分か です。 です。 です。 たれは御子キリ たかったの なたにも分か です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。
す。疲れや睡眠に勝るも る場所。そこ が知らせて下さったその やリストが私 なたにも分か なたにも分か です。 す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで すの祝福を祈 る場所。そこ	す。疲れや睡眠に勝るも る場所。そこ が知らせて下さったその キリストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院	す。疲れや睡眠に勝るも る場所。そこに が知らせて下さったその お会、それは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院
す。想求や睡眠に勝るも、る場所、そここのがあります。彼らは「主」ります。こここのがあります。彼らは「主」ります。こここれ、お知らせて下さったその、ために来られ、出来事を見」たかったのためにも分かいです。 たかにも分かいです。 たかにも分かいです。 ために来られ、その親子で回じ、 ために来られ、 ために来られ、 ために来られ、 たがおられる場所で この教会の説 なたにも分かい です。神は世界中どこにで 神の祝福を祈りもおられますが、その神 (青山学院) が私たちを救うお方とし	す。想求や睡眠に勝るも、る場所、そこです。 か知らせて下さったその たかったの ためにその ためにも分かい です。 なたにも分かい たかったの ために来られ なたにも分かい たかったの ために来られ のがあります。彼らは「主 ります。こここ のがあります。彼らは「主 ります。こここ のは一里の祝福を祈い ために来られ したかれ たの ために来られ した たの たの たの たの たの たの たの たの たの た	す。親末や睡眠に勝るも、る場所、そこのがあります。彼らは「主」ります。ここしが知らせて下さったそのにために来られ、それは御子キリストがおられる場所でしために来られ、マークがおられる場所でに、こことのがおられますが、その神の祝福を祈知が私たちを救うお方とし
のがあります。彼らは「主 ります。こここ す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし	のがあります。彼らは「主 ります。ここ」のがあります。彼らは「主 ります。ここ」が知らせて下さったその ために来られが知らせて下さったその ために来られず。神は世界中どこにで 神の祝福を祈りもおられますが、その神 (青山学院 が私たちを救うお方とし	のがあります。彼らは「主 ります。こここ す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし
のかあります、彼ら信「主」ります、ここのかあります、彼ら信「主」ります、ここのためのために来られ、その神は世界中どこにでです。やいは御子キリの出来事を見」たかったのために来られ、す。神は世界中どこにで神の祝福を祈知もおられますが、その神(青山学院が私たちを救うお方とし	のかあります、彼ら信・主しいます、ここのかあります、彼ら信・主しいます。 教会、それは御子キリ ストがおられる場所で もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし	のかあります、彼ら信・主しいます、ここのかあります、彼ら信・主しいます、ひというなたにも分かいです。 お会、それは御子キリ の出来事を見」たかったの ために来られ、教会、それは御子キリ の出来事を証 ちおられますが、その神 (青山学院もおられますが、その神 (青山学院 が私たちを救うお方とし
が知らせて下さったその キリストがおられる場所で す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで 神の祝福を祈 るおられますが、その神 (青山学院	が知らせて下さったその キリストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院 が私たちを救うお方とし	が知らせて下さったその キリストがおられる場所で す。神は世界中どこにで もおられますが、その神 が私たちを救うお方とし
が知らせて下さったその おられますが、その神 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	が知らせて下さったその おおられますが、その神 が私たちを救うお方とし	おおられますが、その神 が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし
が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし たかったの たかったの ためったの ためったの ために来られ ために来られ ために来られ です。 <td>ためったの が私たちを救うお方とし たかったの たかったの ためったの ためったの ためったの ために来られ ために来られ ために来られ です。 です。 です。 たかったの ために来られ ために来られ ために来られ ための説 です。 です。 たかったの ために来られ ために ための説 ために たの です。 ため たの ため <</td>	ためったの が私たちを救うお方とし たかったの たかったの ためったの ためったの ためったの ために来られ ために来られ ために来られ です。 です。 です。 たかったの ために来られ ために来られ ために来られ ための説 です。 です。 たかったの ために来られ ために ための説 ために たの です。 ため たの ため <
です。 です。 それは御子キリ ストがおられる場所で す。神は世界中どこにで やの祝福を祈 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 での教会の説 での 教会の での 教会の での たが たい たが た の れ で の れ の た の た の た の た の た の た の た の た の た	です。 なたにも分から なたにも分から なたにも分から が私たちを救うお方とし ために来られ。 なたにも分から ために来られ。	です。 やおられますが、その神 が私たちを救うお方とし ために来られ
日羽号を見」たた。たの たみにも分から です。 す。神は世界中どこにで す。神は世界中どこにで やの祝福を祈 い あたられますが、その神 (青山学院	日羽号を見」たた。たの たぬい羽にす。 なたにも分かい です。 神は世界中どこにで もおられますが、その神 (青山学院 が私たちを救うお方とし	日羽号を見」たた。たの ためにお分か。 です。 マー・ お会、それは御子キリ の出来事を証 もおられますが、その神 (青山学院 が私たちを救うお方とし
です。 なたにも分か にです。 なたにも分か に し なたにも分か に し なた にも分か	です。 なたにも分かい です。 神は世界中どこにで 神の祝福を祈い の出来事を証 の出来事を証	です。 なたにも分かいです。 神は世界中どこにで が私たちを救うお方とし
です。 なたにも分か なたにも分か なたにも分か なたにも分か	です。 なたにも分かい です。 やは世界中どこにで 神の祝福を祈い もおられますが、その神 の出来事を証 が私たちを救うお方とし	です。 なたにも分か なたにも分か です。 なたにも分か 、その神 (青山学院 もおられますが、その神 (青山学院
が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし	なんたちを救うお方とし が私たちを救うお方とし
教会、それは御子キリの出来事を証 が私たちを救うお方とし	教会、それは御子キリ の出来事を証 が私たちを救うお方とし の出来事を証	教会、それは御子キリの出来事を証
が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし が私られる場所で ての教会の説 が私られる場所で での教会の説	教会、それは御子キリの出来事を評	教会、それは御子キリの出来事を評
が私たちを救うお方とし (青山学院)	が私たちを救うお方とし (青山学院)	が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし
が私たちを救うお方とし (青山学院す。神は世界中どこにで 神の祝福を祈知)	ストがおられる場所で ての教会の説	ストがおられる場所で ての教会の説
が私たちを救うお方とし (青山学院)が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし
が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし 一 何の祝福を祈
が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし イークの福祉の祝福を祈	が私たちを救うお方とし が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし
が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし	おおられますが、その神(青山学院
が私たちを救うお方とし (青山学院	が私たちを救うお方とし(青山学院	が私たちを救うお方とし (青山学院
が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし
が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし	が私たちを救うお方とし
か私たちを救う未たとし	か私たちを救うお方とし	か私たちを救らおたとし
「アオアランオンミャーイン」	ーフオフランオンコーノー	

第 4852 · 53 号	(第三種郵便物認可)	教 団 新	報	2016年12月17日	(2)
Ti 教区よ	り参加者が集う	▼「障がい」を考える小委員会▲ 「障がい」を考える小委員会▲ 「障がい」を考える全国 れた。今回の交流会は、 「障がい」を考える全国 れた。今回の交流会は、	より「小学就学前の教育・社会の各 関係学校と共に育成する る伝道、教育、社会の各 関係学校と共に育成する	 「「障がい」を考える全 「「障がい」を考える全 して発題がなざれた。 て開催された。 て開催された。 「「障がい」を考える全 して発題がなざれた。そ 「関節がい」を考える全 して発題がなざれた。そ (関わる牧師の育成の必 (動きを受け止め直し、同 (動きを受け止め直し、同 (動きを受け止め直し、同 (動きを受け止め重し、同 (助きを受け止め重し、同 (助きを受け止め重し、同 (助きを受け止め重し、同 	▶ 国教育・保育の宣教
CDによじる医連属 実践を聞いた。障がい者 に障がいのない人のよう は、社会に障がい者を含 むすべての人を受け入れ	A P C D の 和たアジア初の国際機 なた。 1日目の 講演では、 た。 2 3 名 がい者を中心に組織 では、 A 本 た。 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	会▲ 和条約と ジア太平洋障害者センタ ※ 二 (APCD)) 新長、二 (APCD)) 新長、二 (APCD)) 新長、二 (APCD))	る の家族のための相談室」 できるよう常議員会への そ た宣教方策会議の報告書 た宣教方策会議の報告書	超 教育・保育を伝道の手段 総いできた「牧会者とそ 継いできた「牧会者とそ	保育の宣教課題について発題
2日目の講演は、分団での質疑への応答から始まり、キリストの宣教と された。主の伝道の初め に障がい者、病者があっ た(マタイ4・23以下)。障	 ま題、のでの一般であるが、インク がの一般であるが、インク がのの一般である。 がのの一般である。 がのの一般である。 がのの一般である。 がのの一般である。 がののである。 がののである。 がののである。 がのののである。 がのののである。 がののである。 がのののである。 がのののである。 がのののののののである。 がののののののののののののののののののののののののの	講講演 る配慮を求めるインクル ている。障がい当事者が ている。障がい当事者が	第6回委員会は10月14 (1)15年度伝道資金報告 のからの伝道資金報告 でからの伝道資金報告	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
遣うか行れれた。川合 の他に、支援会や川合宣 の他に、支援会や川合宣 の他に、支援会や川合宣 ていた金沢八景教会から ていた金沢八景教は村山	●世界宣教委員会● いたいて世界宣教委員会● こおいて世界宣教委員会● の月7日、教団会議室 宣教 において世界宣教新の派州サ	ーションが異なること ーションが異なること して理解す ることができる。 ることができる。 なる。すべての人がまず なる。すべての人がまず	確認した。実施に至らない計画の援助は全額返金でいることが明らかになっていることが明らかになった場でいることが明らかになった場でいることが明らかになった場でいることが明らかになった。	及、14 教区が申 して して して して して して して して して して	らうこととした。「手度内も月を通して確認しても題を担当したパネラーに題を担当したパネラーにはすでにできあがってい
その、イン合同メンジストで、 そ定。 そ定。 そ定。 そ定。 そ定。 そ定。 そ定。 そ定。 そに 教会は、1870年代に 教会は、1870年代に 教会は、1870年代に 教会は、1870年代に	会 川合望宣教師派遣式 留教師はビザがおり次 された。 第、米国カリフォルニア 話す人たち 第、米国カリフォルニア 話す人たち	を持ち、そこから互いにを持ち、そこから互いにといい。受け入れ合うインクルーシブの共同体を形成していく。時間と忍耐が必要な取り組みである。また、教会が、建物、る。また、教会が、建物、	った場合は教区議長に委 うた場合は教区総会報告に する報告書には教会名を 明記し、教区総会報告に 2016年度伝道資金運用	か 申 請	じめ、欧団として取り組 のための相談室」設置は のための相談室」設置は
高の二つの部かある。 川 高の二つの部かある。 同時 に近隣の日本人牧師と協 に近隣の日本人牧師と協 に近隣の日本人牧師と協	-教委員会▲ 川合望宣教師派遣式 教師の派 州サンフランシスコにあ であるが、英語部と日語 メソジス 対委員会 第、米国カリフォルニア 話す人たちが中心の教会 期待され 対するが、英語を 日本語算	ステレンションの面で アクセスに配慮している か、教会員や関係者の間 で「障がい」に関する学 で「障がい」に関する学 た。	13%相当の175万4 17年度伝道資金運用		あったと感謝したハ。りつつ期待する委員会でしてくださることを祈にしてくださることを祈認した今総会期の宣教委
か高齢化しており、 日本語を話す牧師の招聘 る。そのような厳しい現 る。そのような厳しい現 きが祝されることを心か ら願っている。	派遣 日本語宣教を担うことも メソジスト教会も教会員	今回は、視覚障がい、 物した。次回には、さ を加した。次回には、さ らに障がい当事者6名が れる。 (上竹裕子報)	った。教区伝道方策交付 った。教区伝道方策交付 れた。	イ 1 ことを確認した。 1 する件 沖縄、九州、大 阪の各教区からは未申請 ごあった。44教区からの 申請となった。44教区からの 1 中請となった。 4 1 5 5 7 6 7 7 7 7 7	の確認に関する件 伝道 が の 確認に関する 件 伝道 た 策 交付 金 北 1 3 1 万 4 千 円 、 教 区 伝 道 方 策 交 付 低 道 ち 策 交 付 金 約 三 て 5 万 4 千 円 、 総 十 5 5 万 6 千 円 、 総 二 3 1 万 4 千 円 、 総 二 3 1 万 4 千 円 、 総 二 3 1 万 4 千 円 、 総 二 3 1 万 4 千 円 、 総 二 5 万 6 6 6 7 5 万 6 7 5 7 5 7 6 7 5 7 5 7 6 7 5 7 5 7 6 7 5 7 5 7 6 7 5 7 5 7 6 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 6 7 5 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 5 7 5 7 5 7 5 7 5 5 7 5 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 5 7 5 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 7 5 7 7 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7

(村山盛芳報)

が任期満了で春に帰国、
は、宣教師自身や支援会前任者の近藤誠宣教師
をどのように過ごすか 間を置かずに宣教師を派 | だけでなく、世界宣教委 働き人を求め、教団や教 らいたい。 きを覚えて祈り支えても | な業である。 宣教師の働 は、日本基督教団の大切 応えて宣教師を送ること 会の要請があり、それに 員会も担うべき事柄では

米国のビザの取得が難し があるだろう。この時期いは、想像を絶するもの 遣するために準備がなさ 任地を辞して時を待つ思 遣が決まって年度末で前 くなっているのだが、派 れてきたが、派遣式の時 点でまだビザが発行され



川合宣教師を祈りをもって派遣

付金申請総額については | 円については15年度の交また、教区伝道方策交 | えたので、不足分の36万

◎主催・問合せ
日本基督教団兵庫教区

◎ メッセージ

「あれから22年、まだ22年」

~主にある希望を抱いて~

宇野 稔牧師(平安教会)

◎日時 2017年1月17日(火)午後6時

「兵庫県南部大地震記念の日」追悼礼拝

◎場所 日本基督教団 神戸栄光教会

(神戸市中央区下山手通4-16-1)

担金総額の5分の1を越 献金をもって充てること 規則第7条に、教区の伝 額の5分の1および指定 道方策交付金は負担金総 とされている。今回は負

|総額を5375万3千円 付金残額を充てることと した。以上により、申請

として承認した。

(高橋和人報)

(3) 2016 4	₣12月	17 🖯	教	1	新 執		(第三種郵便物認可)	第 4852 · 53 号
に務まるれじてにな い。介護や看護の現場においても、人やい。介護や看護の現場においても、人やい、介護や看護の現場においても、人やい、それを使うのはあくまる現実はあるが、それを使うのはあくまで「人間」である。人がその「心」で感じ、判断する。		の A I の れ I の た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	羽被報	ャンプ開催、本部会計等開催、第27回とひつじキ	ート(水戸中央教会にて) 円)、被災教会支援コンサ	16教会・2幼稚園。総額貸付金返済状況(未完済教授対策室および担当幹救援対策室および担当幹	第5回) 会議を、教団会	
S.	社会事業		290万円)、第40 (290万円)、第40	除染対策工事に係る資金討、郡山細沼教会敷地の了後の対応についての検	教団救援対策本部活動終 策本部会計決算見通し、	in京都」プレ会議開催報 帝議事項においては、 審議事項においては、	たらは東日本大震災救援 からは東日本大震災救援 からは東日本大震災救援	会議 本 新会堂献堂式の予定、教 新会堂献堂式の予定、教
は出来ないし、またしは出来ないし、またした。	奨励日メッ	関わる者全ての人々の「思い」は決してである。	************************************	し出され、はじめに森啓しを与えられた。	節の御言葉によって励ま 哲夫総幹事よりヨハネに	会礼拝が捧げられ、長崎名の参加者により開催された。協議会に先立ち開催された。協議会に先立ち開催された。協議会に13教区26	◆隠退教師を支える運動 () () () () () () () () () ()	・部会議▲ 「「「「「「」」」」 「「」」 「「」」 「「」」 「」」 「」
ま せた 2 に 3 い 6 年 わ	セージ	れからの時代 る、「キリスト る、「キリスト	いたでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	疑応答の時を持った。教年金制度の概略説明、質団年金局理事長より教団		困難の中にも必要が満た	両 「の 20015 王度諸服告All 大切 一 5 2 3 3 5 5 2 3 3 3 5 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	(引力 会
第12月4日 第394日 社会委員会委員長 社会委員会委員長 芳澤信	ていただきたい。	めが大切であるかを実践が大切であるかを実践したい。尚いっそう、こー教社会事業」のこれまでの		2日目は教団職員礼拝した。	議を重ねた。夕食のひとすると共にこれからの運	か団に分かれ情報を共有 おり若干の説明の後、2 がし、委員長、事務局長 の若干の説明の後、2	な業を実施し	へのお礼)、立川の高齢者 のお礼)、立川の高齢者 第1回)本部会議を、11 開催し、教団救援対策本
この運動に占める大切な この運動に占める大切な 実に仕えていきたいとの 思いを新たにした。理解 と協力を心よりお願いす る次第である。	きな果堕ら旦ってるり、うな配慮ができるか、大うな配慮ができるか、大	金資金増強を主たる目 のしが定められ今日に至 れている。	☆員会見呈」で「次田平 て満場一致で可決され て満場一致で可決され た。これに基づき「推進 た。これに基づき「推進	そのための基金・財源の年金』の給付額の増額と	よび教師の遺族に対する その趣旨は「隠退教師お		課題を共有	部活動終了(2017年 3月末日)後の被災教会・ 1回常議員会に提案する こととした。 (雲然俊美報)
し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、	へ、 長丁 松司 化、 長丁 松司 化、 青 手 こ の ち 代 表 を 派遣 して もら い う 代 表 を 派遣 して もら ら 代 表 を 派遣 して もら ら	西セミナーハウスに於い 9月21日・22日、京都関 6月21日・22日、京都関 7月21日・22日、京都関	●国際青年会議に京都◆	Summerican の始める			上会問題く と防につり海基氏(新天いてく がについての力 を につか を が につか を が に の が を が の を が の を を た の の を を の の を を の の を を の の を の の の を の	
ながら、リー を発揮できる している。 している。 リー		われた第1回大会に続く 第2回の国際会議とな る。 、今、私たちが直 議では、今、私たちが直	会議に向け	mememememememememememememememememememe			と新天地」と題して話して るキリフ防について~特に統一協会 い。他にの「最近のカルト状況と予 いてい、海基氏(荻窪教会牧師)よ いか、開督教大韓監理会宣教師)、小 ダウンオ1日目は藤枝宗浩氏(基 ていくび	1000000000000000000000000000000000000

飯田 仰報)

ことは間違いない。 ての大切な一歩となった 者一人ひとりの意識が高 められた。本会議に向け 協議と討論が続き、参加 してもらった。 その後、非常に活発な

「『避難の権利』を求める | 片岡氏からは、教団の教 のプレゼンテーションを との意義と、教会ができ 発からの位置をマッピン 会、幼稚園、保育園の原 る具体的なことに関して グによって可視化すると

話してもらった。そして いる様々な課題について 態について、宇野氏から 故後に今もなお直面して は原発事故後の避難生活 の生々しい話と、原発事 らした汚染の広がりの実 危険性と原発事故がもた ネルギーを用いることの 篠原氏からは放射能工

氏、更に、早稲田奉仕園 職員の片岡平和氏を迎え 表の宇野朗子(さえこ) 全国避難者の会」共同代 て話をしてもらった。

て意識の高まり

こ、情報を共有してほ 三)を各教会に一冊は

発講演会が行われた。 立ち、市民も参加する脱原

(与那城初穂報)

秘密裏に行われる聖書 『カルトって知ってま っでに教会に接触して ム教系の団体も出現 禹グループなど。イ ゴ、クリスチャントゥ 校理、 ヨハン・キリス リスト教系の団体は多 心にも相談が寄せられ られない教会形成をし れた。併せて、新天地 し天地創造から再臨ま ·』(教団統一原理問題 いないかを点検した /必要がある。トップ しめとするカルトに乗 三体像を学ぶことが提 云への注意を喚起し、 には新天地について知 関心が内側だけに向 式の運営をしていな の牧師と連携すること、脱 会後にもケアが必要である こと、ケースによっては他 る弁償は弁護士に依頼する 解を得ること、被害に関す を希望する場合は本人の了 こと、本人と牧師との面談 るにあたってのポイントを 別問題小委員会の時間が設 て本人と話し合いを続ける を得てもらうため書籍等を 話してもらった。相談者で 方」と題して、相談を受け ルト被害者への相談の仕 けられ、またセミナーに先 ことなどである。 紹介し、家族が中心になっ ある家族に統一協会の情報 松戸幸谷教会牧師)より「カ このセミナー中には性差 2日目は吉田好里氏(新



